

登録コード	L1134800	開講年度	2026				
担当教員	三谷 尚澄			副担当			
授業科目	哲学・思想論基幹演習Ⅵ						
英文授業名	Philosophy Foundation Seminar Ⅵ						
授業タイトル	哲学基幹演習						
単位数	2	対象学生		講義期間	前期	曜日・時限	金曜・4時限
講義室	人文第2講義室	遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること		
信大コンピテンシー	該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			⇔	【授業の達成目標】		
	2022Lカリ，2021Lカリ						
	【2022年度以前カリ対象】 自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力			⇔	・ 代表的な哲学の問題と真剣に向き合うことを通じて、常識的思考が陥りがちな硬直状態を抜け出し、虚心にことの真相を突きとめようとする視点・態度を獲得する。 ・ 代表的な哲学の問題を批判的に検討することを通して、他者の受け売りではない自分独自の思考を練り上げることができるようになる。 ・ 哲学的・思想的に重要な問題をテーマとした資料の検討を通じて、代表的な哲学的問題に関する幅広い知識を修得する。		
	【2022年度以前カリ対象】 過去の英知の批判的継承のうえに立って創造的な未来を切り拓く開拓力			⇔	・ 概念史的背景、事柄に即した論理的・批判的思考等を通じて、さまざまな哲学的問題に対してより奥行きの高いしかたでアプローチし、総合的に吟味・検討する能力を習得する。 ・ レポートの作成を通じて、読み解いた内容を自分なりに噛み砕き、他人に理解できる言葉で明瞭に整理して伝達する能力を習得する。		
	2026Lカリ，2025Lカリ，2024Lカリ，2023Lカリ						
	【2023年度以降カリ対象】 人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門の学力が身についている。 【思索力・受容力・批判力】			⇔	・ 代表的な哲学の問題と真剣に向き合うことを通じて、常識的思考が陥りがちな硬直状態を抜け出し、虚心にことの真相を突きとめようとする視点・態度を獲得する。 ・ 代表的な哲学の問題を批判的に検討することを通して、他者の受け売りではない自分独自の思考を練り上げることができるようになる。 ・ 哲学的・思想的に重要な問題をテーマとした資料の検討を通じて、代表的な哲学的問題に関する幅広い知識を修得する。		
	【2023年度以降カリ対象】 専門の学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身についている。 【開拓力・企画発想能力】			⇔	・ 概念史的背景、事柄に即した論理的・批判的思考等を通じて、さまざまな哲学的問題に対してより奥行きの高いしかたでアプローチし、総合的に吟味・検討する能力を習得する。 ・ レポートの作成を通じて、読み解いた内容を自分なりに噛み砕き、他人に理解できる言葉で明瞭に整理して伝達する能力を習得する。		
授業で学べる「テーマ」	その他						
全学横断特別教育プログラム							
授業の概要	哲学を学ぶうえで、読み、考え、議論し、書く能力の訓練と修得が必須であることは言うまでもない。しかし、同時に、こういった哲学の技法を使いこなせるようになるためには、さまざまな問題をめぐる代表的な見解を理解し、背景的知識として蓄え、自分自身のボキャブラリーの一部として使いこなせるようになっておく、という「まねび／真似び」のプロセスもまた同等に重要である。 このような考え方に基づいて、この授業では、（1）歴史的に重要な哲学的問題を扱った、日本語もしくは英語で書かれた標準的なレベルの文献を取り上げ、（2）それらの文献の自主的な読解を通じて、発展的な学びの土台となる堅実な知的基盤を構築すると同時に、（3）担当者の報告をもとに共同で討議することで、明晰なプレゼンテーションと建設的な対話の能力を涵養することを目指す。 なお、本年度は、「若者論」をテーマとする文献を取り上げ、検討の対象とする予定である。いわゆる「若者論」は世に数多く出回っているが、「当事者不在の若者論」ほど痛々しいものもないように思われる。であるならば、「当事者としての若者」の存在が前提となる演習の場において、あえて「若者論」を主題とする議論を行なってみることに一定の価値が見出されるのではないかと考えてのテーマ選択である。 また、「哲学」という知的営みに関心を寄せる市民としての視点から、たとえば「Z世代」というキーワードをめぐる思索を深めることを通じて、「『哲学なんて現代の日本社会にはまったく必要とされていないのではないか？』という悲観的直観にどの程度の妥当性が認められるべきなのか」という課題について自分なりの言葉で考え始めることができるようになることを目指す。						
授業計画	第1回：ガイダンス 第2回：Z世代の住処――SNS、学校、友達、若者世界のリアリティ（1） 第3回：Z世代の住処――SNS、学校、友達、若者世界のリアリティ（2） 第4回：消費の主役・Z世代――経営者化する社会（1） 第5回：消費の主役・Z世代――経営者化する社会（2） 第6回：唯言が駆動する非倫理的ビジネス――開かれたネットワークの閉じられたコミュニティ（1） 第7回：唯言が駆動する非倫理的ビジネス――開かれたネットワークの閉じられたコミュニティ（2） 第8回：劇的な成長神話――モバイルプランナーのアナザーストーリー（1） 第9回：劇的な成長神話――モバイルプランナーのアナザーストーリー（2） 第10回：消えるブラック、消えない不安――当たりガチャを求めて（1）						

授業計画	第11回：消えるブラック、消えない不安――当たりガチャを求めて（2） 第12回：不安と唯言のはてに――われわれに何ができるのか（1） 第13回：不安と唯言のはてに――われわれに何ができるのか（2） 第14回：まとめと展望 第15回：まとめと展望／授業アンケート
成績評価の方法	扱われた哲学的話題が適切に理解できているかについて、担当回での発表の内容（5割）と学期末のレポート（5割）をあわせて総合的に評価する。
成績評価の基準	成績評価の対象となる各項目について、(i) 熱心な態度と明確な貢献が際立っており、建設的かつ説得的な内容を備えた報告が提出されていれば「卓越している」。(ii) 熱心な態度と十分な貢献が認められ、適切かつ整合的な内容を備えた報告が提出されていれば「かなり上にある」。(iii) 真摯な態度とある程度の貢献が認められ、十分に妥当な内容を備えた報告が提出されていれば「やや上にある」。(iv) 妥当な態度とある程度の貢献が認められ、瑕疵のないまとめと論理性を備えた報告が提出されていれば「水準にある」。
事前事後学習の内容	発表担当でない回についても、資料の該当箇所を熟読してくる。また、授業終了後には、授業において議論された内容について熟慮し、次回以降の議論に生かすことができるよう整理しておくこと。
履修上の注意	各受講者には、自分の発表担当でない回にも出席し、積極的に発言することが必須の責任として要求される。
質問、相談への対応	オフィスアワー〈火曜12時15分～13時15分〉を通じて対応する。
教科書	舟津昌平『Z世代化する社会 お客様になっていく若者たち』東洋経済新報社、2024年
参考書	授業中に指示する。